

オールラウンドのビジネスイノベーション

対外経済貿易大学学生代表

見学日時：2019年6月3日（月）16:15-19:30

見学場所：三井物産

見学概要

三井物産は日本最大の総合商社である。16:30、私たちは三井物産のビルを訪れた。ビルの一階は広々として明るく、また巨大な石が置かれていた。そして私たちは同社のスタッフによる説明会に参加し、三井物産のパンフレットや日中の経済交流及び中国の訪日観光に関する統計データを受け取った。説明会では三井物産の企業組織や事業内容についての紹介と質疑応答の後、三井物産戦略研究所のスタッフ2名から二つの統計データの意味について解説があった。説明会終了後、私たちは同社の社員食堂での懇親会に参加した。食事はビュッフェ形式で、三井物産側からは経験豊富なスタッフが私たちとの交流に参加した。会場からは美しい皇居を、また日が落ちると賑やかな東京の夜景を眺めることができた。



なぜですか？

問：「総合商社」とは何か？

答：総合商社とは日本特有の総合貿易会社である。その規模は非常に大きく資金力も豊かで、様々な商品を取り扱い幅広い業界に携わっている。貿易以外には一般的に不動産業、輸送業、保険業、賃貸業、資源・エネルギー開発業、情報業等の業界に携わり、それと同時に海外にも支社や子会社を設立し積極的な投資や大型プロジェクトを請け負っている。つまり利益が見込める商業活動であればそのいずれにも関わるのである。三井物産が打ち出している「360° business innovation」との言葉同様に、総合商社とはオールラウンドに発展をする貿易集合体であり、その資金力、マンパワー、技術の優位性を活用し、生産型企业に向けて貿易代理、融資、倉庫・輸送、ビジネス情報そして情報コンサルティング等の総合的な商業サービスを提供している。

問：三井物産の事業内容は？

答：大型総合商社である三井物産の業務は多岐にわたっており、金属・インフラ・化学品・食料分野等をカバーしている。懇親会の席上、松永氏からは彼らが中国で実施しているリサイクル事業及び内モンゴル・オールドスでの風力エネルギー開発事業について紹介があった。その業務の幅広さに感銘を受けると共に私たちはまた同社の環境保護や自然に親しむといった理念に魅力を感じた。最初の会社紹介においてスタッフからは三井の360°のビジネスイノベーションというものの意味が時に分からなくなる、なぜなら360°回れば原点に戻るからであるとお話があった。しかしその事業から私の個人的な理解としては、三井の360°に広がるビジネス開発は常に自然との調和や環境の保護を出発点としている。これは初心を忘れず自然に順応するとの理念であり、また日本の大企業の高度な社会的責任意識を示していると言える。

問：貿易から身を起こした多国籍企業である三井物産の傘下に設けられた戦略研究所は主にどのような業務を担当しているのか？

答：多国籍企業の戦略研究部門は一般的に現在の世界政治や世界経済等の状況及び会社内部における業務の運営状況や将来予測の分析を行うなど、主にシンクタンクとして企業戦略の制定を指導する役割を担う。三井物産の見学において私たちは同社の日中貿易についての状況や日中旅行業界の発展といった二つの面の内容について理解を得ることができた。そのためこの二つの項目から戦略研究所の研究のプロセスを見ると、まず日中貿易の状況や日中旅行業界の発展の現状について、日中のここ数年の二国間貿易総額の変化、双方のGDPに占める割合、世界的な順位及び貿易構造、そして日中の観光客数及び全体の海外旅行者数に占める割合、海外旅行において購入する具体的商品、利用するサービスとその割合等の必要なデータを収集する。次に十分なデータの収集や図表の整理を基に、例えば中国による大量の労働集約型商品の輸出と日本による大量のハイテク技術集約型商品の輸出の現状、中国人観光客が日本において好む商品から、企業が今後どのような商品の貿易により多くの資本とマンパワーを投入するべきかを判断するなど、研究スタッフは企業の具体的な事業からどのような事業が潜在力を有し、またどのような事業に大きな課題が存在するのかを評価する。そして最後に研究スタッフは研究報告書を上層部に提出することで企業戦略への提案を行い、企業の担当者が具体的な実施を行う。

感想

三井物産の事業や企業としての性質について理解を得て、私は同社と私たちの学校はとても似ていると感じた。なぜなら、私たち対外経済貿易大学は貿易大学と呼ばれ三井物産も貿易から身を起こしているからである。日本の五大商社の一社である三井物産については会社のビルに入った瞬間から素晴らしさと効率の高さを感じた。三井物産のスタッフの詳細な解説により、私たちは同社の事業内容を知ったが、それは私たちに配られたパンフレットに書かれている通り、360°のビジネスイノベーションで利益を創造すると同時にヒューマンケアや環境へのやさしさ等の理念が含まれたものであった。三井物産は様々な分野から価値を創造また共有し、社会をより効率的に、そして人と自然の共存に適したものにしている。それ以外に同社のビルの立地は非常に良く、社員食堂からは都心部の景色が一望でき、さらに白い壁に囲まれた皇居を見ることもできた。また夜になり街の明かりがとれる頃には、そこはきらめく銀河のようであった。今回の見学では新たな知識を得たと同時に視野も広げることができた。